

災害時のペット問題と連携

岩波真紀
p.a.n.d.a.研究室 / 東京都動物愛護推進員 / ホリスティックケアカウンセラー
ペットロスサポートケアカウンセラー / 愛玩動物飼養管理士



目次

1. はじめに
2. 災害時におけるペット問題
 - あらゆる想定をして備える
 - 猫を飼っている場合
 - 犬を飼っている場合
 - 健康管理と予防
 - その他の動物を飼っている場合
3. 一緒に逃げる
 - 動物救護や動物同行避難の必要性
 - 避難時の健康管理
 - 避難所における問題
4. 在宅避難
 - 在宅避難における注意点
 - 避難時の健康管理
5. 災害に備えるための連携
 - 地域における連携
6. 大切な家族を守る
 - 日ごろからのシミュレーション



2. 災害時におけるペット問題

- あらゆる想定をして備える
- 猫を飼っている場合
- 犬を飼っている場合
- その他の動物を飼っている場合
- 日ごろから健康管理

あらゆる
想定

リスクをできるだけ少なく

- 家具などの転倒、落下防止策を行っている
- 居住地域の災害危険度や避難場所を知っている
- 備蓄品はすぐに取り出せる
- 動物たちの非常用持ち出し袋がある
- 動物たちが過ごす場所は安全が確保されている
- 猫の一日の行動を把握している
- 犬には基本的なしつけをしている
- 水槽の水がコンセントにかからない工夫をしている
- 飼育が難しくなった場合の一時預け先を決めてある
- 犬や猫を多頭飼育している

・・・など

日ごろから心がけたいこと

 普段の生活にも必要なこと

- 社会性を身につける
- 誰が触っても、どこを触っても嫌がらない
- 治療中または高齢の動物を飼っている場合の備え
- 健康管理を行う

猫を
飼っている

災害で愛猫が迷子にならないために



 完全室内飼いのメリット

- 安定した餌の供給、安心出来る休眠、休息
- 一日の行動を把握しやすくなる
- 交通事故、虐待、猫同士の喧嘩、怪我、感染症、から猫を守ることができる
- 鉢植えを倒す、排泄行為、鳴き声などの近隣トラブルを回避



犬を
飼っている

愛犬の行動がコントロールできますか？

- ほかの犬や人に吠えたりしない
- 誰が触っても大丈夫
- オスワリ・マテ・オイデをさせることができる
- ケージやクレートで落ち着いて過ごせる
- してほしいところでトイレができる
- 飼い主と離れていても落ち着いて過ごせる
- (飼い主さんが) 愛犬と離れていても落ち着いて過ごせる

犬を
飼っている

犬の基本的なしつけ

基本的なしつけは他の人に迷惑をかけないということばかりではなく、**愛犬の安全を守る**ためにも大切です。

ハンドシグナルでマテ

騒がしい街中や交差点
耳が聴こえにくくなった際

犬を
飼っている

安心して落ち着ける場所をつくるために

ケージ・クレートを日ごろから使ってみる

嫌いな場所になっていませんか？

<なかなか入らない場合の対策例>

- ・中でおやつを食べさせる
- ・好きなものやベッドを入れる
- ・普段は扉を外して（開けて）好きなように
出入りさせる



社会性を身につける

社会性を身につけることは
ストレス緩和につながります。

しつけは年齢や月齢、その子の性格にあった方法や内容が必要です

自己判断では逆に悪い癖をつけてしまう可能性もあるため、獣医さんや
トレーナーに相談して必要なプログラムを進める必要があります。



治療中・高齢の動物を飼っている場合の備え

抱っこができない場合は、カートやケージ、担架などの準備を。

体調の急変なども考えられます。日頃よりこまめに健康診断を受けさせ
て持病についても把握しておきましょう。

無理に避難をさせず、可能であれば**在宅避難**の検討を。



健康管理と予防

- 定期的に健康診断を受けている
- ワクチンや予防接種を受けている
 - ↳ノミ・ダニ、寄生虫を駆除する
 - ↳フィラリア予防をしている（犬）
- 基本的にはどんなフードでも食べられる
（アレルギーや疾患がない場合）
- 普段の様子を記入した健康記録・手帳を持っている
- 飼っている動物の持病、好きなこと、嫌いなこと、癖などを
把握している。

身元表示の重要性



犬

少なくとも登録時に交付される鑑札と、毎年受けている狂犬病予防注射済票を身に着けさせます。



猫

犬とは違い登録義務がないため、災害時に行方不明になってしまう猫がたくさんいます。首輪が外れてしまう可能性を考えるとマイクロチップがとても有効です。

犬や猫のマイクロチップを、既存の民間登録団体（Fam、JKC、AIPOなど）に登録している飼い主の方へ



環境省のマイクロチップ登録サイト
「犬と猫のマイクロチップ情報登録」が
令和4年6月1日から始まります！

犬や猫のマイクロチップの登録をしている飼い主の方は、
令和4年5月31日までに「移行登録サイト」にアクセスし、
手続きをすれば、**無料**※で環境省のデータベースにも登録できます

※ マイクロチップ登録申請、届出、届出されている動物に対して、登録済みのマイクロチップを付与し、登録済みのマイクロチップに、登録・届出済みのマイクロチップの登録済みをすることができます。



Hurry up!

大切な家族であるペットのために、手続きは今すぐ！
環境省のデータベースに登録されるのは
令和4年6月1日となります



お問い合わせ
公益社団法人日本獣医師会
電話 03-6384-5320
メール info@michiju.or.jp

忘れがちな注意点

手づくり食

普段使っている食材が手に入らない可能性があります。アレルギーや疾患があっても**食べられるもの**などについて動物病院に相談しておくことをお勧めします。

療法食やプレミアムフード

救援物資に含まれない可能性があります。特に、療法食は消費期限に注意して少し多めに備蓄しておきましょう。

フレキシブルリード ではない普通のリードを！

リードは壊れたり切れたりすることを想定して複数用意し、名前が入っていると安心です。逃げ出し防止のため内側からケージにリードを結び付ける場合もあります。

水棲動物

水槽の取り扱い

漏電などの二次災害を予防

電源コードなどを伝わってコンセントの差込口に
水槽の水が流れてしまわないように設置

備え

非常用持ち出し袋の準備はできていますか？

- 水、フード 7日分以上（長引く場合を想定）
- 常備薬、療法食
- フードボール、水入れ（飼っている頭数分）
- ワクチン証明書、健康記録や手帳（写真つき）
- トイレ用品（トイレシート、猫砂、新聞紙）、ポリ袋、タオル、ガムテープなどの消耗品
- 首輪、ハーネス、リード（頭数分）
- ケージ・キャリーバック（名札を付ける）
- 嗜好性の高いおやつやおもちゃ
- その他、防寒用毛布、咬み癖のある子は口輪、など必要なもの

水分を含む
ウェットタイプや
缶詰なども

名札の例

表

犬：むさし♂ 15歳
Mダックス・レッド
気管支炎・股む
鑑札：20208888
202012345123634
猫：ちび♀ 6歳
さび猫
猫白血病ウイルス
怖がり
202012345123458



★名札に貼る写真は家族と一緒に！
飼い主の特定に役立ちます

★良いことよりも悪いことを記載！
避難所での事故防止に役立ちます

裏

飼い主情報
氏名：犬猫 さくら
住所：東京都△△区〇〇1-2-3
電話：080-111-2222
緊急連絡先：048-222-333
かかりつけ動物病院：たんぼ動物病院
（東京都△△区）
電話に出ない場合は、緊急連絡先の実家に
連絡してください。

★緊急連絡先も記載しましょう

裏の個人情報が隠れる形の名札が安心です



3.一緒に逃げる

- 動物救護や動物同行避難の必要性
- 避難時の健康管理
- 避難所における問題

何故
必要か

動物救護・動物同行避難の必要性

災害時の最優先

→ 人命、人の安全

みんなを守るため

動物救護・動物同行避難の必要性

- ペットの位置づけの変化
⇒「家族の一員」が一般的になりつつある
- 被災者でもある飼い主の心のケアとして
⇒車中避難はエコノミークラス症候群の原因になる可能性も
- ◎被災し、放浪している動物を放置することで、
最優先とされる人命や住民への危険につながる可能性がある
例) 野生化した犬や猫が人を襲う
不妊去勢処置がされないまま放浪したために繁殖し、
人や在来生態系への影響が懸念される など

飼い主の目線、動物愛護の視点のみではありません

一緒に逃げる

動物同行避難とは？

災害発生時に飼い主が飼育しているペットを同行させ、避難場所まで安全に避難すること。

動物同行避難

≠

避難所での
人とペットの同居

- ・多くの避難所では人の居住と動物は棲み分けられる
- ・動物アレルギーの方、動物が嫌いな方への配慮を

健康管理

避難時の変化を見逃さない

脱水症状

背中や皮膚をつまんで離したとき、皮膚の戻りが遅い

貧血症状

顔の裏や歯ぐきが白い

熱中症などの
ショック症状

食欲不振
震え
目がうつろ
よだれ
体が熱い
など

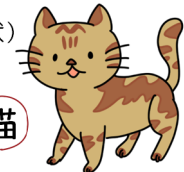
上記以外にも「いつもと違う」「体調に異変がある」場合は
開設される動物救護所に相談を

健康管理

動物シェルターで多いとされる病気

- ・下痢、嘔吐（消化器症状）
- ・上部呼吸器感染症
- ・真菌症
- ・猫汎白血球減少症

猫



犬

- ・下痢、嘔吐（消化器症状）
- ・ケンネルコフ
- ・真菌症
- ・犬パルボウイルス感染症



避難所生活は動物たちにもストレス

災害やいつもと違う環境での生活は動物たちのストレスとなり大きな負担

病気の改善には治療だけではなく ストレス緩和、衛生管理、過密の緩和など**環境改善も必要**

病気の他にも、吠える、咬むなどの問題行動につながることも



4. 在宅避難という選択

- 在宅避難における注意点
- 避難時の健康管理

ストレス
軽減にも

場合によっては「在宅避難」

自宅の安全が確保されている場合は、自宅での避難を続けることもひとつの方法です。

動物たちにとって住み慣れた場所



ストレスなく落ち着いて過ごすことができる

居住地外の親戚や友人など、一時預け先を複数探しておくことをお勧めします。



5. ペットの防災を考えるうえでの連携

- 地域における連携

地域の中の動物飼育を考える

ペットを飼っている人とのコミュニケーション

とりやすい ← 自然と声かけられる



飼い主

ペットを飼っていない人とのコミュニケーション

とりにくい ← 勇気がある積極的な声かけ

近隣トラブルに
つながりやすい

重要な地域での理解

居住地以外の支援者、協力者とのつながりをつくっておく

ボランティアの養成

支援の方法は様々・・・物資、資金、預かり、移動・運搬など

地域の防災担当や避難所開設者への普及啓発

地域で登録されている犬の数をすることで避難動物の数を想定する

避難場所の棲み分け計画

物資要請の手順

避難所でのボランティア受け入れ基準

など



6.大切な家族を守る

- 日ごろからのシミュレーション

すぐに
できること

ぜひ、日ごろからシミュレーションを

動物たちの
「好きなこと」
「安心できること」を
たくさん見つけておく

地域の行政機関に確認
・避難所の場所
・動物救護対策 など
同じ市区町村内でも、避難所
ごとに対応が異なる場合も

・家族で避難訓練を行ってみる
・可能な範囲で防災訓練にも、
参加してみる

→まずは数分から

動物たちを守るためには
皆さんの無事が最優先です



【参考】
参考：東京都「令和3年度 人とペットの災害対策 シンポジウム」資料
災害、あなたとペットは大丈夫？
人とペットの災害対策ガイドライン＜一船順い主編＞ 環境省
緊急災害時動物救援本部 / 東京都動物救援本部
P.a.n.d.a.研究室